

新ひだか町の学力向上策

全国学力・学習状況調査の分析を受け、各学校の学校改善プランに基づいた主な取組を保護者や地域住民の皆様に情報提供するとともに連携を深め、地域一丸となった取組を進めます。

- ◎学習規律の取組の徹底（授業開始前の机に教科書などの準備、開始前に着席など）
- ◎1時間の授業の課題やねらいの明確化とまとめ
 - ①明確な課題提示（授業で何を学ぶか）、②テンポのよい指導、③ポイントのまとめ（基礎・基本の定着）、④定着のための指導（繰り返し学習）
- ◎ノート指導の徹底と家庭学習に結びつく取組
- ◎放課後や夏冬休みなどを利用した補足的な学習サポートの実施（教師の主体性）
- ◎新ひだか町特別支援教育支援員の活用
- ◎標準学力検査（CRT）の実施（補足的な学習の手立てとしてのアシストシートの活用、小中の連携によるきめ細かな指導などへの活用）
- ◎「早寝、早起き、朝ごはん」の基本的な生活習慣と家庭学習習慣の確立



平成27年度 全国学力・学習状況調査 新ひだか町立学校の調査結果

はじめに
平成27年度「全国学力・学習状況調査（平成27年4月21日実施）」が、全国の小学6年生と中学3年生を対象に行われました。学力調査の教科は、国語及び算数・数学の主に知識に関する「A問題」と、主に活用に関する「B問題」に加え、3年ぶりに「理科」が加えられました。また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施しています。

この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を改善することが目的で、平成19年度から実施されています。

新ひだか町立学校の調査結果及び分析結果と、町全体としての学力向上策について町民の皆様にお知らせします。

さらなる授業改善と家庭学習が課題
調査結果から、平均正答率では、小学校国語Aと中学校国語Bにおいて、全国と全道と比較して差が縮ま

りました。しかし、ほかの教科では依然として低迷しています。また、小学校・中学校ともに家庭学習の時間が短く、テレビの視聴時間やスマートフォン・インターネットを利用する時間が長い児童生徒の割合が多い状況が続いています。朝食を必ず食べる」という児童生徒の割合が全国・全道に比べ低い結果となっています。

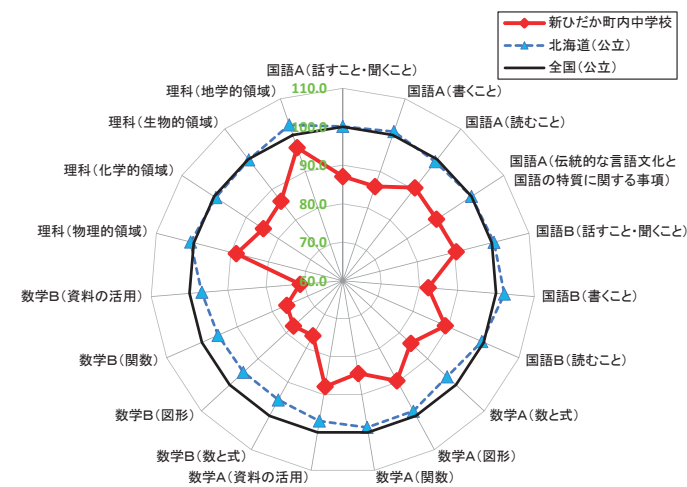
このため、「新ひだか町の学力向上策」を各学校で一層強化するとともに、家庭生活習慣の改善を図ることが必要であると考えています。

特に全国的な調査結果によれば、朝食の摂取率や家庭学習時間の長さや学力調査の平均正答率の結果には大きな関連があることが明らかとなっており、保護者の皆様のご協力のもと、「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な生活習慣と家庭学習の習慣化を重点に取り組みでまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

新ひだか町内中学校の状況（学校数：3校、第3学年生徒数：200人）

【教科全体の状況】

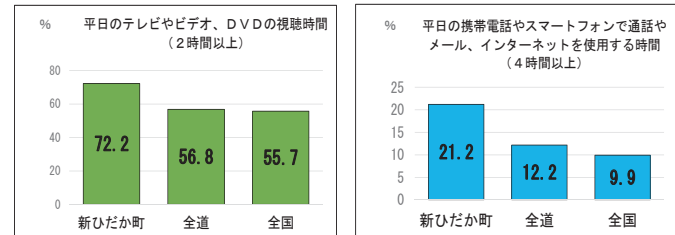
- 各教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び新ひだか町の状況をレーダーチャートで示したものと（新ひだか町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
- 国語・数学の知識に関する「A問題」と活用に関する「B問題」及び理科で実施



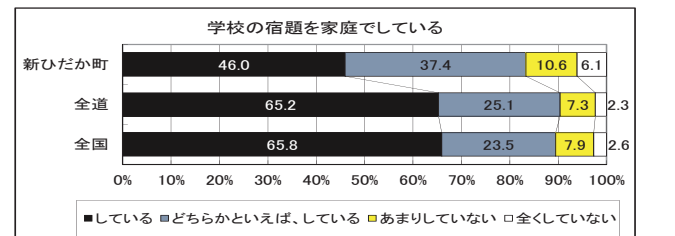
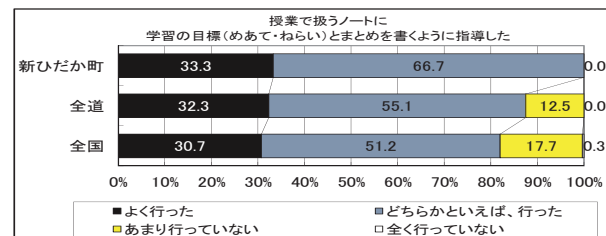
【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> 国語では、全ての領域で全国を下回っている。 数学では、全ての領域で全国を下回っている。 理科では、「地学的領域」で全国とほぼ同様となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校においては、保護者に対して生徒の家庭学習を促す働きかけを継続して行ったことにより、家庭で宿題や授業の復習を行う生徒が増えている反面、「平日のテレビやビデオ、DVDの視聴時間」が2時間以上や「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを使用する時間」が4時間以上の生徒が全国・全道を上回る状況が続いており、家庭学習の習慣化や望ましい生活習慣のさらなる確立が求められる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 学校の宿題を家庭でしていると回答した生徒の割合が8割以上で全国・全道と比べても低い状況ではないが、テレビ等の視聴時間が2時間以上、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が4時間以上である生徒の割合が、全国・全道より大幅に上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 授業で扱うノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導していると回答した学校の割合が、全国を上回っている。 	

【生徒質問紙調査】



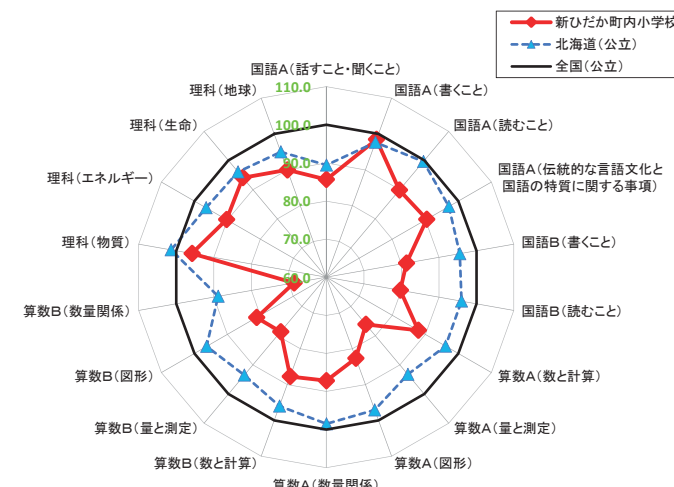
【学校質問紙調査】



新ひだか町内小学校の状況（学校数：6校、第6学年児童数：183人）

【教科全体の状況】

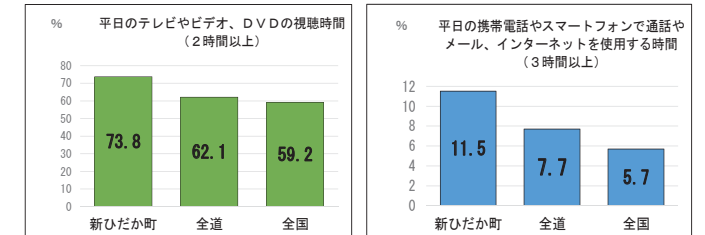
- 各教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び新ひだか町の状況をレーダーチャートで示したものと（新ひだか町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
- 国語・算数の知識に関する「A問題」と活用に関する「B問題」及び理科で実施



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> 国語Aでは、「書くこと」で全道を上回っている。 算数では、全ての領域で全国を下回っている。 理科では、「生命」で全道とほぼ同様となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校においては、保護者に対して生徒の家庭学習を促す働きかけを継続して行ったことにより、家庭で宿題や授業の復習を行う生徒が増えている反面、「平日のテレビやビデオ、DVDの視聴時間」が2時間以上や「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを使用する時間」が3時間以上の生徒が全国・全道を上回る状況が続いており、家庭学習の習慣化や望ましい生活習慣のさらなる確立が求められる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 新聞を読んでいると回答した児童の割合が、全国を上回っている反面、テレビ等の視聴時間が2時間以上、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が3時間以上である児童の割合が全国及び全道を大幅に上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> 全ての学校で、児童に家庭での学習方法を具体的な例を挙げて指導しているが、国語、算数の宿題をよく与えたと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っている。 	

【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】

